



きぬこかい新聞

発行
国土交通省
下館河川事務所
きぬこかい情報発信局

〒308-0841
茨城県筑西市二木成1753
Tel. 0296-25-2161
HPアドレス
<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/>



台風で高水流量観測を実施しました

下館河川事務所では、台風などにより川の水が増水した時に鬼怒川・小貝川の高水流量観測を実施しています。

今年九月には台風十五号の影響により、鬼怒川の水位が上昇し、鬼怒川の石井(右)水位観測所(栃木県宇都宮市)では避難判断水位を超える大きな出水となり、この観測所近隣の鬼怒橋において河川の洪水時の流量を観測する高水流量観測を実施しました。河川の流量は直接計測することができないため、河川の流速を計測し、それに断面積を乗じて流量を算出します。

また、ADCP(超音波流速計)を用いた流量観測の高度化に向けた調査も同時におこなわれました。



高水流量観測実施状況



ADCP(超音波流速計)を用いた流量観測調査

第四十回ハーブフローのつどい

十月十五日(土)、茨城県取手市の藤代公民館において第四十回ハーブフローのつどいが開催されました。

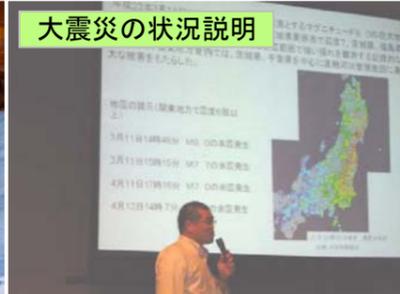
今回は「ハーブの種まきと大震災後の流域の安全」と称して、下館河川事務所小栗調査課長による大震災での河川の被災状況と復旧状況をはじめ、緊急避難について(ハザードマップの紹介)、防災意識の持ち方についての講演が行われました。



ハーブフローのつどい受講状況



水質調査の説明



大震災の状況説明

宇都宮市と合同でホームレス巡視を行いました

平成二十三年九月二十七日(火)、二十八日(水)の二日間に渡り、宇都宮市と合同で河川敷に居住するホームレスの合同巡視を行いました。

これは、当事務所が管理している鬼怒川において、沿川自治体(宇都宮市)と合同で二回実施しているものです。

合同巡視は、平成十四年に「ホームレスの自立支援等に関する特別措置法」が制定されたことを受け、国と地方公共団体が相互の緊密な連携を図り、ホームレスの自立支援等を促すために実施しています。

それぞれの機関の役割として、当事務所は国有地の不法占用の解消、洪水時に小屋等の流失による河川への支障の軽減、本人の生命の危険等を説明・指導し、河川敷からの退去を促し、併せて使用実態の把握を行います。

また、沿川自治体は、健康や生活の相談に応じ、自立支援を促しています。

今回の合同巡視では、居住者には口頭及び文書で指導し、不在者には文書を物件に貼り付ける等の指導を実施しました。



居住者に自立に向けた指導



河川敷使用実態の把握

花と一万人の会で秋のイベント開催

十月十六日(日)「第二十一回ポピーの種まき&さつまいも掘り大会」が鬼怒川(左岸)下妻市の大形橋付近の鬼怒フラワライオンで行われました。「来年の春にはきれいな花が咲くように」と今年も多くの方の参加でポピーの種まきが行われ、さつまいも掘りでは大きなさつまいもを掘り出すことができました子ども達のうれしそうな笑顔がたくさん見られました。

同時に行われた河川の清掃では、たくさんのゴミが回収されました。ご協力ありがとうございました。



ポピーの種まき



さつまいも掘り

！こどもたちにも大好評！建設フェスタ2011で起き上がりこぼし・竹けん玉作り

平成二十三年十月二十三日(日)に、茨城県ひたちなか市において、県内の公共団体や建設産業に関連する各種団体が一体となって地域の皆さんとのふれあいを通じて、特に次代を担う子供に生活・社会基盤の整備を担う建設事業に対する理解と建設産業の魅力を知っていただくために、茨城県の《建設フェスタ2011》が開催されました。

下館河川事務所からは、「伐採木の利活用」を紹介・展示し、「起き上がりこぼし」と「竹けん玉」作りを体験してもらい子供達に大好評でした。大人の方にもエコと懐かしさから関心も多く、伐採木の利活用の取組みを紹介する良い機会になりました。



起き上がりこぼし作成



竹けん玉



建設機械に触れて

小貝川水害から25年 語り継ごう小貝川の歴史

十二月四日(日)九時三〇分から筑西市総合福祉センターにおいて、昭和六十一年の小貝川水害から二十五年が経過しています。当時の惨事状況を振り返り、経験を風化させることなく未来に引き継ぎ未曾有の被害をもたらした東日本大震災と絡めて、日頃の防災意識を高めることを目的に式典を開催します。当時最前線でご苦労された方々のパネルディスカッションや、基調講演等を行う予定です。ぜひ足を運んでみてください。

絶滅危惧種カワラノギクの保全活動が地域で活発！

十月十六日(日)鬼怒川のさくら市氏家でシナダレスズマガヤの抜き取り作業と、カワラノギクの観察会が行われました。参加者はカワラノギク等の礫河固有種を守るために、一生懸命に抜き取り作業を行いました。汗をかけた後の勝山鍋とおにぎりのお昼は格別でした。午後は、東京大学の鷲谷先生やうじいえ自然に親しむ会副会長などの松田さんの講話、意見交換などが和気あいあいの中行われました。

また、同日、鬼怒川の宇都宮市平石地区ではカワラノギク(絶滅危惧種)の保全地でお花見が行われました。参加者は豚汁に舌鼓を打ちながら、満開を迎えたカワラノギクの花の観賞を楽しんでいました。この保全地は、平石地区のみならず、平成二十二年四月に種まき後、外来種の草取り等を行いカワラノギクの生育地の保全と管理をしている場所です。

今後、このような地域での取り組みの輪がさらに広がる事を期待しているとあります。



宇都宮市平石地区



カワラノギクの生育地

さくら市氏家のカワラノギクの生育地